

**全ての仲間と共に“真の笑顔と活気あふれる職場”の実現をめざし、
“働きがい” “生きがい”のある労働、“生活の豊かさ”を実感できるJR東日本を創造しよう！
～2023年度年末手当の妥結にあたって～**

11月10日、JR東日本は2023年度年末手当を「基準内賃金の2.65ヶ月分に50,000円を加えた額とする」と回答した。組合員が費やしてきた努力に相反する回答に対して「社員のやる気を失わせる回答だ。これまでの努力を正しく評価されていない。モチベーションは低下するばかりで安全・サービス品質を下げる。豊かな生活の実現は程遠い」という怒りの感情を露わにした。そして、黒字基調の健全経営を実現した自信に基づく年末手当への期待から大きく乖離した回答は、社員の心が益々離れるばかりか、経営陣の判断に失望する声が全職場に溢れかえった。

申第15号「組合員の努力を正当に評価し『真の笑顔と活気あふれる職場』を取り戻す緊急申し入れ」団体交渉では「貴組合員の声は十分に受けとめており生活実感や物価上昇の経済動向も考慮要素としている」と回答するものの「営業利益はコロナ前に比べ未だ約6割の水準に留まっている」とし、営業利益（単体）1,550億円との直近の業績を主たる考えとして低額回答の正当性を私たちに押し付け、会社回答の再考には至らなかった。

黒字化を達成しても社債発行額が増え続けることや、額に汗して奮闘し続けた今を生きる社員の待遇改善や生活保障を行う責任は現経営陣には存在しないのか。2022年度夏季手当妥結時の「黒字を達成した際には社員への還元を実施する」という労使確認を「労使の合意事項として一言一句確認したものではない」と事実を覆し、黒字化必達という至上命題だけでは事足りず、労働の複務化によって労働密度を高め、社員を「人財」と呼びつつも、期末手当を出し渋り低く抑え込んだ人件費でJR東日本の発展のために働かせ続けるJR東日本会社の姿は、決して許されていいはずがない。

輸送サービス労組は、これまでの労使協議によって露わになったJR東日本現経営陣の経営責任を問い、組合員の労苦と悲痛な声をもとに粘り強く交渉し、以下について確認した。そして、申第15号交渉終了直後に開催した全地本代表者会議で「妥結」の判断をおこなった。

【団体交渉のあり方について】

- (1) 11月13日(月)12時までの回答期限(妥結判断)を超えた中でも労使交渉等について信義誠実に対応する
- (2) 回答期限を超えたことをもって12月4日の支給日(予定)を遅らせない

【今後の期末手当に関する考え方について】

- (1) 環境の変化に対して、労働条件向上などを行い、健康経営の推進、社員・家族の幸福実現を目指す
- (2) 期末手当は、直近の業績・社会状況を加味して支給するもの
- (3) 「成績率」の適用は低水準の期末手当の基準額を補うものではない

私たちは、JR東日本グループのすべての仲間と共に「真の笑顔と活気あふれる職場を取り戻す」ために運動し続ける。それは、賃金をはじめとした労働条件の向上を実現し、働きがい・生きがいを実感できる職場を創造するために、JR東日本の将来に責任を持ち続けることを意味する。なぜならば、鉄道の安全性向上に資するからに他ならず、JR東日本の復活と発展をかけて奮闘した多くの仲間の幸福を実現するためだ。

輸送サービス労組運動を妨害するかのようになり、私たちがつくり出す運動を揶揄する声が存在する。しかし、労働組合に加入し「組合員の生活向上」「明るい未来」を求め、要求を掲げ団体交渉で堂々と主張することは決して悪などではない。困難な時だからこそ多くの仲間が集まり、働く者の地位向上と利益を守るために必要なのが「労働組合」だ。職場では「私たちの意見をしっかりと考慮していただいたものと受け止めています」という掲示までおこなわれ、JR東日本経営陣がことさらに強調した「サステナブルな成長」「厳しい経営環境」という言葉によって“同調圧力”をつくり出し、真実の声が封殺されていることの方が大きな問題である。

私たちの生活を取り巻く情勢は厳しいものばかりだ。「新たなジョブローテーション」などの人事要員施策に起因する安全危機、不透明な世界情勢とそれに端を発した経済危機、超大型の台風襲来や地球沸騰化などの気候危機、私たちの心豊かな生活は多くの危機に直面している。しかし「誰かがやってくれる」という傍観者的な考えで全ての課題を乗り越えることは出来ない。今こそ、JR東日本の未来に責任をもって行動するために立ちあがる時だ！

組合員と共に歩み、すべての仲間のために結成した輸送サービス労組の使命はこれからも変わることはない。職場活動を基礎に、輸送サービス労組運動の輪と連帯を大きく拡大し「心豊かな生活」「働きがい・生きがいのある労働」「仕事と家庭生活の調和がとれた働き方」を実現するために、すべての仲間が一丸となって奮闘し続けよう！

2023年11月14日
JR東日本輸送サービス労働組合